

## 【よい子でない宣言】

もう20年ほど前のことになります。5年生の担任をしたときに、ある男の子が私に次のようなことを言いました。「先生たちは僕のことを“よい子”だと言うけれど、僕は“よい子”ではないんです。僕は普通の男の子なんです。」担任をして2ヶ月ほど経ったころだったように記憶しているのですが、そのとき彼がどうしてそういうことを私に言ったのかが分かるような気がしました。彼は私にそう伝えることで、肩の荷を降ろしたかったのではなかったかと。それまでの彼の学校生活の過ごし方について、私は詳しくは知りませんでした。しかし、ときどき教員たちから、「私のクラスはあの子がいるから大丈夫なの」というような意味のことを聞くことはありました。それを聞いたときに、「すごい子がいるんだな」と思っていたものでした。でも、それは教員の思いと期待をその子の重荷にしてしまっていただけのことだったのかもしれない。低学年の頃は、先生によく思われたい気持ちや、期待に応えようという気持ちが強く、そういう頑張る姿と本当の自分の姿が同じなのかどうかということを考えることが少ないのかもしれない。もちろん、必ずしもそれが悪いことであるとは言えませんが、もしある段階でそういう自分の姿が気になり始めたら、そこで気持ちをちゃんと表現できるようにしないと、そういう子はもしかすると自分の心を自分で壊してしまうことになってしまうかもしれません。大人が考えるよい子とはどういう子なのかについては、いろいろな考えがあるでしょうが、大人の言うことをなんでも素直に聞き入れて、どんなことも頑張ろうとする子だけがよい子であるとは言えないというのは誰もが認めるところなのではないでしょうか。その後、彼は真面目に物事に取り組む姿勢を失うことなく生活し、ときに悪戯をして怒られることがありながらも、たくさんの友だちと実に楽しそうに学校生活を送っていました。

さて、この小学校の子どもたちのよいところは、素直、優しい、子どもらしい、元気、運動や勉強が好き・・・とたくさんあります。それぞれのよい面を認め、伸ばすことで、その子らしい広がりがたくさんの中で見られるようになるはずです。よい子かそうでないかということを考えるのではなく、一人ひとりのよいところを見つけ、それを伸ばしていくことができる環境を作ることが私たちの大切な仕事であると考えます。

## 【ケータイ安全教室への参加のお願い】

桐光学園小学校では、3年生からパソコンを利用した学習を行っています。3年生では、基本的なパソコンの使い方を学習し、お絵描き、ローマ字学習を兼ねた文字入力、ワードを使った文書作成などを行います。最後にまとめの学習として自作のお話を作り、ペイントソフトを使って描いた絵をワードに挿入して絵本のようなものを作ります。4年生は、3年生で学習した内容を使って観察記録を作成したり、図書室での調べ学習と同様にインターネットを使用したりすることもあります。5、6年生ではプレゼンテーションソフトであるパワーポイントを使った研究のまとめと発表に取り組み、6年生では各自が6年間の生活を振り返りながらアルバム作りを行います。

この中で、4年生では、インターネットの利用について、さらに5年生ではコミュニケーションツールとして使用されるメールなどの正しい使い方などについて、最低限のルールやマナーを学んでほしいと考えています。メールのやりとりについては、実際には携帯電話を使ったものの方が多くなっているのが現状であり、これも軽視できないと考えています。この学校の子どもたちがどの程度ケータイメールなどを使用しているかどうかは別にしても、そこにある危険性などを知らせることで今社会で起きている様々な問題に自分自身が直面した際に正しい判断ができるようにすることは必要です。

保護者の皆様も、携帯電話を使った犯罪やいじめなどが多く発生していることはご存知のことと思いますが、もしかしらご自分の家庭とは無縁のことと思われるかもしれません。また、すでにそれぞれのご家庭ではお考えになられていることかもしれませんが、再度家庭でのケータイ利用の約束、危険から子どもたちを守るためのフィルタリング、迷惑メールへの対処方法や、メールのやりとりで人を傷つけてしまうことも考えながら、人と人の望ましいコミュニケーションの取り方はどういうものなのかなどについて、子どもたちと保護者の皆様と一緒に考えていただきたいと思います。強く希望しております。

今回実施する安全教室の申し込みは締め切っておりますが、不参加で用紙を出された方も当日ご都合がつく方は是非参加くださいますようお願いいたします。

## 【農園での遊び】

10月14日の朝会で、「火曜日と金曜日の昼休みの時間は農園で遊ぶことができますようにします。」と子どもたちに伝えました。学年、学級ごとに農園に出かけて行って、作業や観察をすることはあっても、なかなか自由に遊ぶ時間をとることができません。身近にある自然を体いっぱい感じてもらえればと思っています。

遊びの様子を見ていると、虫を捕まえる子、栗や柿を採る子、走り回ったり秘密基地を作ったりする子など活動の様子は様々でした。先日は、カマキリがトンボを食べている場面に直面しました。かわいそうだと思いますが、目を逸らしてはいけない現実の厳しさを子どもたちと一緒に感じた瞬間でした。